



## 統計から社会の実情を読み取る

### 第137回 倫理上の許容度の日本的特徴

本川 裕 | Honkawa Yutaka

アルファ社会科学(株) 主席研究員

■東京大学農学部農業経済学科卒。勸国民経済研究協会常務理事研究部長を経て、現職。元立教大学兼任講師。農業、地域、産業、開発援助などの調査研究に従事。現在は、「社会実情データ図録」サイト (<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/>) を主宰するかたわら地域・企業調査等を行う。著書に、『統計データはおもしろい!』(技術評論社、2010年)、『統計データが語る日本人の大きな誤解』(日本経済新聞出版社、2013年)、『なぜ、男子は突然、草食化したのか:統計データが解き明かす日本の変化』(同上、2019年)等。PRESIDENT Onlineにて連載を執筆中。



#### 同性愛ほど世界を二分している価値観の対立はない

世界価値観調査は、世界数十カ国の大学・研究機関の研究グループが参加し、共通の調査票で各国国民の意識を調べ相互に比較している国際調査であり、1981年に開始され、第2回調査の1990年からは5年ごとの周回で行われている。各国ごとに全国の18歳以上の男女1,000～2,000サンプル程度の回収を基本とした個人単位の意識調査である。最新の2017年期(2017～2020年)は前回から5年よりやや間隔があった。

この調査では毎回、倫理上問題のある事柄について各国の国民の意識を調べている。

2017年期の調査では、19の倫理上の事項に対する許容度を調べている。事項によって調査国数は必ずしも同じでない。離婚や自殺などは対象79カ国すべてで調べられているが、婚前性交渉やテロ、他人への暴力などについては49カ国で調べられているのみである。

図1には、19のうち5つの事項について、各国の許容度を順位の高い国から順番にプロット

した。ここで許容度は、「間違っている(認めない)」から「正しい(認める)」まで1から10のいずれかを選んでもらった結果の平均値である。国ごとの許容度の差が小さい事項は縦長に各国が並び、差が大きい事項は横に寝たプロット線となる。

図1の付表に許容度分布の格差が大きい順に事項をリストアップした。同性愛は各国で最も意見が分かれる倫理的事項である。同性愛だけでなく、妊娠中絶や離婚についても善悪の判断が各国でかなり異なっている。他方、脱税や他人への暴力などはどの国の国民も良いと思う人は少なく、国による差は小さくなっている。こうした点が図では視覚的に明らかになっていると思う。

#### 日本人の倫理観は「死」と「性愛」で緩く、「暴力」と「社会のルール」で厳しい

図1における日本の位置から日本人の倫理観の特徴を概観しておこう。

各国で許容度の差が小さい他人への暴力や脱税といった事項、すなわち国民性とはかかわりない

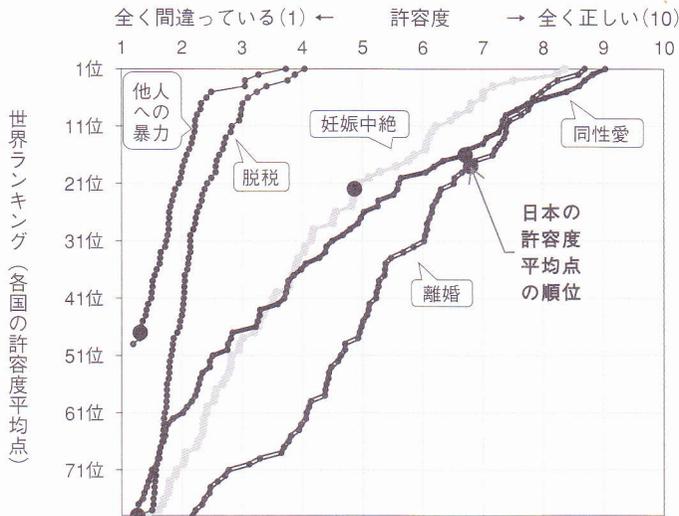


図1 倫理上の許容度（各国分布と日本の特徴）

注）各国の許容度は平均点。許容度格差は上位3カ国平均と下位3カ国平均との差。  
資料）世界価値観調査（2017年～2020年）

図1付表 世界各国の許容度格差が大きいものと小さいもの

	許容度 格差	日本		対象 国数	許容度	
		許容度	順位		最上位国	最下位国
同性愛	7.52	6.71	16	77	アイスランド	ヨルダン
婚前性交渉	6.79	6.87	6	47	ドイツ	ヨルダン
妊娠中絶	6.47	4.87	22	79	デンマーク	ミャンマー
離婚	6.27	6.80	18	79	デンマーク	バングラデシュ
安楽死	5.85	6.18	16	79	デンマーク	ヨルダン
不特定性交渉	5.14	2.67	52	75	デンマーク	チュニジア
死刑	4.94	6.80	3	79	台湾	ジョージア
子どもを叩く	3.87	1.30	48	49	ナイジェリア	ギリシャ
売春	3.81	1.98	56	74	ニュージーランド	ジョージア
無資格請求	3.53	1.76	69	79	フィリピン	アルバニア
自殺	3.48	2.71	31	79	オランダ	エジプト
キセル	3.35	1.32	76	77	ロシア	アルバニア
政治暴力	2.70	1.39	63	79	フィリピン	トルコ
テロ	2.69	1.21	43	49	フィリピン	トルコ
脱税	2.47	1.26	79	79	フィリピン	日本
窃盗	2.17	1.11	48	49	フィリピン	エジプト
ワイロ	2.15	1.39	64	79	フィリピン	エジプト
DV	2.12	1.27	43	49	フィリピン	ドイツ
他人への暴力	2.09	1.31	47	49	フィリピン	ギリシャ

「悪事」については、日本人の倫理観は世界の中でも許容度が低いことが分かる。許せないことは絶対許せないのだ。

これに対して、各国で見方が分かれる同性愛や離婚といった事項については、日本の順位は比較的高く、許容度が高いことが分かる。こうした事

項は先進国で許容度が高く、途上国で許容度が低い傾向が見られるが、日本人の意識は先進国的なのである。言い換えれば欧米からの影響が大きいのだとも言えよう。

順位の高い順に日本の許容度の高い事項を並べてみよう。

1. 死刑 3位 (79カ国中)
2. 婚前性交渉 6位 (47カ国中)
3. 同性愛／安楽死 16位 (77／79カ国中)

先進国で許容度の高い「性愛」に関する倫理事項で日本の順位も高い。

それとともに、死刑や安楽死といった「死」に関する事項で許容度が高い点にも気づく。無常観など日本人独特の死生観が影響している可能性がある。その他の「死」と関連する倫理事項である自殺や妊娠中絶も日本の許容度順位は低くない。

逆に許容度が最下位か、最下位に近い事項は以下である。順位を最下位を1位として逆順に表現すると、

1. 脱税 1位 (79カ国中)
2. 子供を叩く／キセル／窃盗 2位 (49／77／49カ国中)
3. 他人への暴力 3位 (49カ国中)

日本人は、社会の決まりや暴力への許容度が特に低いことがうかがわれる。

まとめると、日本人にとって倫理上の許容度が高い分野は「死」と「性愛」、低い分野は「暴力」と「社会のルール」と特徴づけられよう。

## 世界的な倫理観の分布と変化

図1の付表には、許容度が世界一高い国と世界一低い国の国名を掲げた。これについては、以下のような点が目立っている。

- ・許容度が世界一高い国を見ると、許容度格差の大きな倫理的事項についてはデンマークなど北欧諸国が多くなっているのに対して、許容度格差の小さな事項については途上国が多い。
- ・許容度が世界一低い国名を見ると全般的にヨルダン、トルコ、エジプトなどイスラム教圏の国が多くなっている。イスラム教は厳しい倫理観

全く間違っている(1) ← 同性愛許容度 → 全く正しい(10)  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

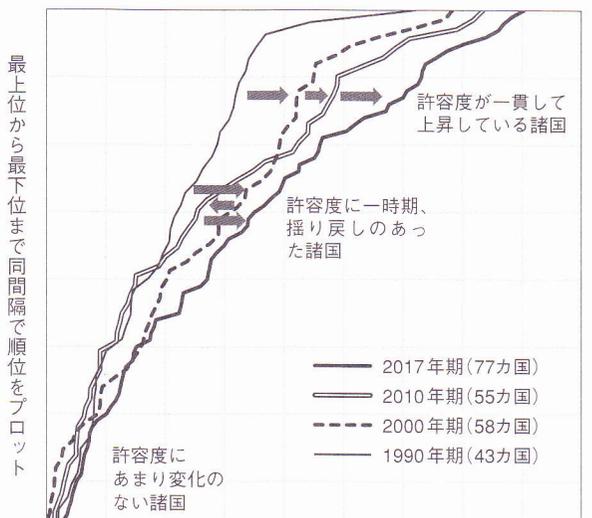


図2 世界各国の同性愛許容度の推移

注) プロットした各国の許容度は平均点。  
資料) 世界価値観調査 (各年)

をうながしていると言えよう。

- ・ドイツは「婚前性交渉」は最も許容度が高いのに、「DV」は最も許容度の低い国となっている。物事によって許せる、許せないの判断が極端に振れる国民性なのであろう。

世界各国で価値観が大きく異なる同性愛への許容度の分布について、時系列的にどう推移してきたかを図1と同じ形式のグラフで図2に掲げた。なお、多くの国で調査がはじまった年次で各調査期をあらわしている。

これを見ると、全体的には許容度が高まる方向に世界各国はシフトしてきているが、許容度がもともと低い国の許容度はあまり変化がない。許容度の高い欧米先進国は一貫して許容度が高まる傾向にあるが、許容度が中程度の途上国を中心とした諸国では、一時期、許容度が低まる揺り戻しの時期を経ている。

日本人の倫理的許容度の高さの世界ランキングの推移  
(順位は100カ国中換算)

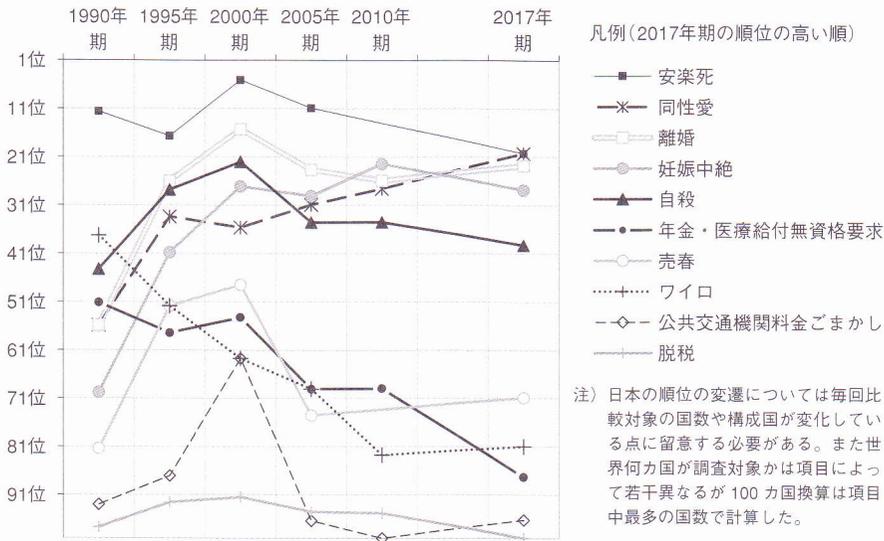


図3 世界の中での日本人の倫理観の特徴がどう変化してきているか

資料) 世界価値観調査

## 固有性がやや弱まり欧米化も進む日本人の倫理観

日本人の倫理観がどう変化しているかを最後に概観しよう。上で同性愛への見方の例で示したように世界全体で大きく倫理観が変化している場合があるので、許容度の平均点ではなく世界中のランキングで日本人の位置変化を探った。図3に継続的にデータが得られる主要事項についての結果を示したが、調査ごとに対象国数が変化しているので対象国が100カ国だとしたらの順位に換算して示している。

もともと日本は「安楽死」や「妊娠中絶」、「自殺」といった「死」にかかわる倫理事項で許容度が高かったが、これらはやや順位が低下傾向にある。

「同性愛」や「離婚」など性愛に関連する事項も「死」に関連する事項と同じように許容度レベルは高いが、「死」に関連する事項とは異なり、やや許容度が上昇傾向にある。

「死」にかかわる倫理項目の高さは日本固有の「死生観」を反映しているが近年はその固有性が弱まってきているのに対して、性愛に関連する項目については欧米的倫理観の影響で許容度レベルが上昇する傾向にあると言えよう。

現在、日本人が倫理的に厳しく考えているのは、「年金・医療給付無資格要求」、「ワイロ」、「公共交通機関料金ごまかし」、「脱税」といった社会ルール違反である。しかし、そのうち「年金・医療給付無資格要求」、「ワイロ」に関しては、従来はそれほど厳しく考えていなかったのに、最近もともと厳しかった「公共交通機関料金ごまかし」、「脱税」への見方と肩を並べるほど許容度が低下したという違いが認められる。

なお、性愛に関連する項目のうち「売春」は欧米の影響を受けず、日本の許容度は低くなっているが、日本の場合、社会ルール重視の観点から勝るからであろう。